

熊本県益城町 報告書

特別老人養護施設ひろやす荘（社会福祉法人慈光会）



熊本県上益城郡益城町

■地震概要

【4月14日(木)21:26頃の地震】

震源地 : 熊本県熊本地方(北緯 32.7 度、東経 130.8 度)

震源の深さ: 11km 地震の規模: M6.5(当初発表 M6.4)

[震度 5 弱以上が観測された市町村]

<震度 7>

・熊本県 : **益城町**

<震度 6 弱>

・熊本県 : 玉名市、西原村、宇城市、熊本市東区、
熊本市西区、熊本市南区



・熊本県内で震度 5 弱以上を観測するのは、2015 年 7 月 13 日 02:52 頃、大分県南部を震源とする M5.7 の地震(大分県佐伯市で震度 5 強、熊本県阿蘇市、産山村で 5 弱)以来。

・震度 7 の観測は、1995 年 1 月の兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)、2004 年 10 月の新潟県中越地震、2011 年 3 月の東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)に次いで 4 回目。**九州地方での計測震度 7 は史上初。**

【4月16日(土)01:25頃の地震】

震源地 : 熊本県熊本地方(北緯 32.8 度、東経 130.8 度、長崎の東 90km 付近)

震源の深さ: 12km 地震の規模: M7.3(当初発表 M7.1)

[震度 5 弱以上が観測された市町村]

<震度 7>

・熊本県 : **益城町**、西原村

<震度 6 強>

・熊本県 : 南阿蘇村、菊池市、大津町、宇城市、合志市、熊本市中央区、熊本市東区、熊本市西区

・この他、九州地方から東北地方にかけての広い範囲で震度 4~1 の揺れを観測。

・震度 7 の観測は史上 5 例目、一連の地震で 2 回目。同一地域を震源とする一連の地震で震度 7 を複数回観測したのは初めて。

【気象庁会見】

<4/23 15:30~、青木地震津波監視課長>

・地震活動は比較的多い状態とやや少ない状態を繰り返しながら継続している。予断を持たずに強い揺れへの警戒を続けてほしい。

・地震活動の範囲がこれまでよりもさらに広がる様子はみられないが、全体的に活発な状況が続いて収まる様子はみられない。

■避難情報(5. 26 日 18:00 現在)

【避難勧告】

<熊本県>

- ・熊本市 : (18 世帯 45 人) ・阿蘇市 : (219 世帯 569 人)(16 世帯 52 人)
- ・菊池市 : 土砂災害(特別)警戒区域等(700 世帯 2000 人)
- ・合志市 : 上須屋地区の一部(2 世帯 3 人) ・菊池郡菊陽町 : 戸次区(76 世帯 209 人)
- ・菊池郡大津町 : 全域(13531 世帯 34090 人)
- ・上益城郡益城町: 避難指示地域を除く全域(約 12000 世帯約 34000 人)
- ・上益城郡御船町: 避難指示地域を除く全域(7025 世帯 17373 人)
- ・上益城郡甲佐町: 避難指示地域を除く全域(4299 世帯 11028 人)
- ・下益城郡美里町: 下中郡地区(69 世帯 207 人) ・阿蘇郡南阿蘇村: (2000 世帯 4694 人)

・熊本県は 25 日、エコノミークラス症候群の調査結果を初公表。県内主要 20 病院で 24 日までに医師が入院が必要と判断した患者は 35 人(男性 6 人女性 29 人)[NHK]

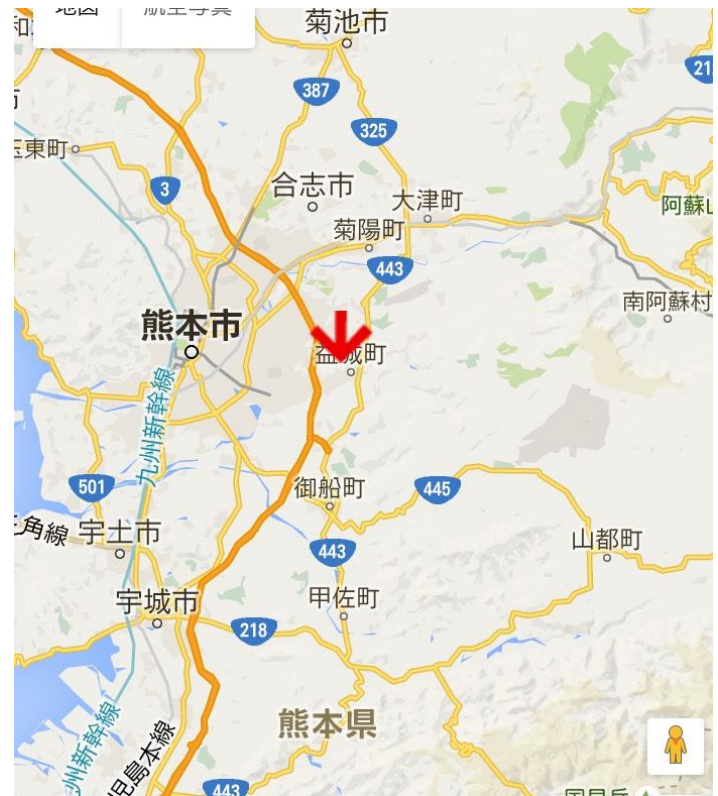
■物的被害

【全壊】・熊本県 : 益城町 1026

益城町は、熊本県のほぼ中央北寄りにあり、熊本県庁所在地熊本市の東隣り。総面積 65.67km²、人口 **33,015** 人のベッドタウン。



特産品: スイカ・メロン・市だご・柿



活動報告 池永憲彦

2016年4月24日(日)～25日(月)

訪問先:熊本県神社庁/おはな整骨院/**特別老人養護施設「ひろやす壮」**

神社本庁:渡邊剛/おはな整骨院 常務 秋吉泰樹 健軍院院長 木村毅一郎

NPO法人HJP 池永憲彦 池永奈津子

この度の震災で被害が大きかった**益城町**に行ってきました。知人の従兄弟が理事長を務められる老人ホームから、要請を受けたので物資と義捐金を届けてまいりました。

結果は必要な物をNPO法人メンバー渡邊剛氏の所属する熊本県神社庁で現地調達し、支援金と共に大量に届ける事が出来ました。

駆け付けてくれた熊本の「**おはな整骨院**」の秋吉常務、木村院長のお蔭で大量に運ぶ事で出来、涙を浮かべて喜んで下さった方もおられました。

その後の引き継ぎが出来、その後の関わりの見通しも立ち、やるべき事も決まりました。

やはり現地に行き、お話しをしてわかった事が沢山ありました。

今回は人の優しさが生んだ沢山の偶然が重なった事と、気仙沼での経験が生んだ直感のようなものが助けてくれた感じがしました。

今回は行くきっかけがとても多かったです。

① 益城町に知人の親戚が経営する施設が避難所にもなっている。

→これは気仙沼の時と同じです。気仙沼でも特別老人養護施設キングスガーデンを拠点とさせて頂いていたので、現地に行っても初めて来た施設に思えないくらい不思議な気分でした。

② 熊本市で整骨院の院長をしてる義弟が毎日避難所に通い、治療&診察ボランティアをしている。→車中泊が多く、身体がやられてしまっている方が多い中、これは実働的な支援活動。

③ HJPと一緒に立ち上げた神社本庁の**渡邊剛**さんが急遽災害チームで熊本神社庁入り。→これは現地で出来るボリュームが増える合図なので確実なGOサインです。

④ 全国の神社から集まった支援物資が現地にある。

→行き場のない物資を必要な場所へ届ける事が出来る。熊本に縁がないと難関である現地調達は不可能に近い。

驚いたのは神社本庁渡邊さんが、出向先の佐賀神社庁より災害支援チームとして熊本の神社庁に1週間入った事を知った日と同日に知人からきたメールでした。

「村松かよ子です。私の実家が熊本市で、親戚多いのですが益城町に住む親せき達は避難生活。今は東京で出来る事をしています。従妹が理事長の老人施設が被災しました。かずさんが、昔菊池で仕事をしていたのを思い出しました」

このタイミングでこんなメールが来るのも神様から「行け」というサインとを感じる事の一つです。

そして今回物資運搬のお手伝いをしてくれた [おはな整骨院](#)の健軍院の院長は僕の義理の弟になります。身内が熊本にいるという立場を与えられました。きちんと柔道整復師という国家資格を持っていますので、ご老人でも安心して施術できます。



おはな整骨院は熊本で6店舗経営する整骨院グループ。義弟の健軍院は**整骨院のマンションの安全が保障できないので今は営業を中止し、毎日避難所に治療と診察のボランティアで通っていております。**その事で毎日義弟とやり取りしていたのもきっかけとなりました。

気仙沼の時は、HJPと一緒に立ち上げた看板娘のパラリンピックアスリート佐藤真海ちゃんの実家が気仙沼だったという事、2007年に真海ちゃんの北京パラの壮行イベントを地元で開催した時に気仙沼に縁が出来ていたという事が重なり、思う存分に力を発揮出来た所があります。今回もそういう意味でとてもありがたいご縁が重なり、自然に行けました。



※井ノ原快彦氏と一緒にいった時にステージで富司純子さん義捐金をお渡し、メッセージを読み上げた。沢山の方が感動してくださった(気仙沼)

今回一番被害がひどかった益城の老人ホームひろやす荘(避難所兼)を重要地点とした。富司さんとの会話を先方にお伝えしたら、急に無口になり、涙を流して「ありがとうございます。本当にありがとうございます。」と深く深く頭を下げてくださいました。

「こんな大変な状況の時にどんな言葉も取り繕った言葉になってしまうよね。ただただ、胸を痛めてます。私が若かったら飛んで行ってボランティアしたいんだけど、今は行ってもご迷惑になるから、あなたに話します。」と言って下さった言葉をお伝えしました。

ひろやす荘には大量物資と一時義捐金として20万円お渡ししました。

物資支援

事前にひろやす荘より、おじいちゃんおばあちゃんの「嚙下食」が不足していて困ってるという話を聞いていたので、微力ながら尾道と久留米のスーパーやドラッグストアを6件回り、なんとか318食ゲット。半分でも30キロくらいになり、個人の力の小ささを実感。でも現地では調達が不可能との事で、相当喜ばれました。

現地入り

2016年4月24日(日)6時41分の新尾道発の新幹線で久留米へ。

久留米でレンタカーを借りて熊本へ向かう。

13:30 熊本城付近に到着実際にテレビで見るのとは全く違うショックな光景だったが、それでもそびえ立つ熊本城の力強さに胸を打たれた。



益城のひろやす壮は元々給水をお願いして頂き、お水を神社をお願いした所、全国の神社から集まったお水を持っていかけてくださったそう。ありがたい。施設の人は神社からのお水という事で縁起がよさそうと違う喜び方もして下さったそう。神社に集まった支援物資も持っていける事になり、物色。レンタカー1台ではもったいないくらい物資が充実していた。その時にそれを知っているかの如く、大きなワゴンで義弟とおはな整骨院の秋吉常務が登場。実に頼もしい。



早速ひろやす壮に取り、今不足しているものを聞きながら支援物資を選択。ここにはなんと！ひろやす壮に不足しているおかゆが山積み！



そのまま益城町へ向かう。現地に近づくに連れて町の倒壊がひどくなっていく。家に入れず、外で避難している方々、ずらっと並ぶ車中泊の車や、大量のごみなどが目立つ。

津波と違い、同じ場所でも倒壊の度合いがバラバラ。あちこちにヒビが入ったり、全壊だったり、傾いたり、見た目が大丈夫でも危険と判断されていて中に入れなかったり様々。

あちこちで倒れた電柱や、倒壊した建物が目に入る。町が実施した応急危険度調査では **62.6 %** にあたる建物が「危険」と判定されたらしい。



益城町は想像以上に酷く、現場は混乱時。そんな中なんとか [ひろやす壮](#)に到着。
現地に話を聞きながら物色したものの、ネットとかの情報では物資はもう足りていて、ストップしていると聞いていたり、沢山持って行きすぎても迷惑ではないかの心配だ多少あった中、僕らの到着を心待ちにしてくださり、物資を降ろす度に職員の方々から歓声があがるくらい喜んでいただいた。

スーツケースで持っていった嚙下食もよっぽど足りなかったらしく、心から喜んでくださった。渡邊さんが絶対に持っていけと言っておられたブルーシートは手を叩いて喜ばれた。

◆ひろやす壮に届けた物資

- 飲料水 450本
- クレラップ 30本入 2箱
- ダイアラップ 30本入 2箱
- ぼり袋 50枚入 1箱(現在ポリ袋とペーパータオルがかなり足りないとの事)
- 白がゆ 100個
- 梅がゆ 140個
- 卵がゆ 200個
- 鮭かゆ 140個
- なめ茸 15入 12箱
- ケチャップ 20入 2箱
- 米 30キロ 6俵
- ウェットティッシュ 15入箱
- ウェットシート1箱
- 除菌アルコールスプレー 400ml 10本
- ブルーシート 10枚×4
- アルコールポケットウェット 10枚×3
- かつおつゆ 6入 1箱
- ごまドレッシング 6入 1箱
- 四季のつゆ 6入 2箱
- マヨネーズ 20本
- 嚙下食 318食 ※記載者 奈津子

義捐金 20万円



やはり若手の力持ちがいると全然違う。
頼もしい。



富司純子さん義捐金授与。頭を下げないでくださいと言っても下げてしまう理事長になんとも言えない表情になってしまった。

本日お会いしたのは、ひろやす社の理事長永田ご夫妻。(奥様の恭子さんは施設長)
お忙しい中、じっくりとお話をする事が出来た。ひろやす社は、社会福祉法人慈光会が運営する
3つの老人養護施設の一つ。**現在益城の重要な避難場所の一つ。今後もここが拠点となり、街の復興の重要地点となるのは間違いない。**



震災から1週間。利用者さん以外に地元の避難所としても解放した場所。
断水はまだ続き、この日に給水車が来たとはいえ、まだまだ現場は深刻。おかゆさえもミキサーにかけないと食べれない利用者さんがほとんどなので、お米6俵はかなり喜んで頂けた。
永田さんご夫妻は、本当に素敵なお二人で恭子さんは明るく、綺麗で姉御的な雰囲気。
気仙沼の由美子さんだと思いながら、なぜか初めて会ったのにそんな気がしなかった。

そして、**今はスタッフの疲弊が一番すごいというお話をされていた。**スタッフのほとんどが被災してるからもう極限の状態だと。自分たちはなぜかハイになっていて興奮状態なのか、まったく疲れてないと。これは気仙沼の由美子さんから聞いているが、後から一気に来るパターンだから身体のケアが必要。

そして今後の引き継ぎとして力強いプロの治療家2人を紹介。おはな整骨院の秋吉さん、義弟の毅一郎。

HJPとしての今後の関わりとしても現地の強力な人財。紹介したらとても喜んでくださり、**早速次の日にボランティアで施術に行ってくれたそう。**

一番大変だった永田理事長、永田恭子さんを施術してくれたとの事。天国みたいと喜ばれたそう。おはな整骨院は、熊本でファンが多い人気の整骨院。この力を今後も被災した方々に是非使ってほしいので、**その応援も企画中。**

おはな整骨院 柔道整復師の国家資格を取得した人間ばかり。老人も安心して施術を受ける事が出来る。



→さっそく4月25日にひろやす社の
理事長、施設長、疲弊したスタッフの
無料治療をしてくれた。
「天国のようです」と心から喜んでくださった

※これは今後の資金運用の
正式依頼に入りません。
ボランティアとして。



いろんな支援の形がありますが、ご縁から繋がる支援は的確で尚且つ柔軟対応できるので強いと思います。現地で頑張ってる人のケアは実はかなり重要な支援の一つ。

今回は1日しか入れなかった割にはとても大きな支援をする事が出来ました。
気仙沼と同様。この場所のご縁も大切に、出来る限りの応援が出来たらと誓いました。
ひろやす荘のスタッフさん達は、気仙沼のキングスガーデン同様、本当にいい人ばかりでした。
一刻も早く安心して眠れる日が来る事を祈ります。
これをきっかけに末永いお付き合いをしていきたいと思います。
永田恭子さんに電話をして「友達になろう」と伝えました。そして末永いお付き合いをお話しました。
これにてご報告を終わらせて頂きます。

NPO法人Happy Japan Project
池永憲彦



今後の予定

- 継続支援。ひろやす荘へもう一度今年中に訪問。その際に第二回支援金 20 万円持参予定。ひろやす荘は、利用者と合わせて 140 名の方が避難している場所。資金は何かと必要。
- 熊本の支援を考えている人の窓口になれるよう、何度か通う。心を通わせないと相手が気を遣ってしまい、本当に必要な情報を得る事が出来ない。
- 物資支援：不足している物資の支援はおはな整骨院の復興支援チーム「熊本応援し隊」と連携して今後も届けていく。
- 被災者の身体のケア：治療ボランティアとして毎日活動しているおはな整骨院に、被災者の治療と施術を正式に仕事として依頼。理由はいくら立派な活動でも実質ボランティアは続かないし、営業再開まで無収入だと整骨院の運営が圧迫される。東北の時もそうだったが、現地で頑張ってる人の支援はとても大きな支援の一つ。一日のボランティアを 1 回 10 万円で依頼。5 名～10 名のスタッフできちんとした形で動ける。4 回で約 133 名以上のケアが可能。現在 140 名が避難しているので、全員の施術が可能。現地での必要物は金、物資、薬、そして体のケア。プロの治療家の施術は今の益城では大きな助けとなる。

●アドバイザー派遣：気仙沼の社会福祉法人キングスガーデン の佐藤由美子さんをアドバイザーとして気仙沼から誘致。佐藤由美子さんと、益城の永田恭子さんは同じ特別老人養護施設の経営者同士。津波被害から 5 年間街の復興のシンボルとして活動し続けてきた佐藤由美子さんは、必ず同じ立場の永田恭子さんの心の大きな支えになるのは間違いない。そして、同じ被災地ならではの悩みを共有し、大きな力を生むモデルケースになる事は予想できる。そして被災を 5 年経験している先輩として実質的な 5 年分のアドバイスが可能。そのお繋ぎ役を今後も引き受けようと思う。

●尾道てっぱん同盟 尾道お好み焼き炊き出し支援

NHK 朝どらてっぱんがきっかけとして出来たお好み焼きを焼くボランティアチーム。

被災地は楽しい事がこれから必要となってくるので、その時期を見極めて尾道てっぱん同盟にお声掛け。その費用を援助したい。

●芸能人誘致&イベント

ひろやす荘の理事長、施設長がおしゃっていた事。「芸能人の方の力を知った」。これは実はコロッケさんが、同じ日に激励に来られていて、避難所の皆さんを楽しませたとの事。田舎で芸能人を見たことがなかった人達は大喜び。疲弊しきってるスタッフのあんなに喜んだ顔が久しぶりに見れたと、改めて芸能人の力を知った。本当にありがたいし、ぜひ来て元気を頂きたいとおっしゃっていた。

益城は様々な支援が必要な場所です。応援よろしくお願い致します。